

## 《カトリック大和高田教会 お知らせ》 2024年9月1日

典 礼 暦	日 時 など	
年間第22主日	9月 1日 (日) ミサ	10 : 30
	9月 5日 (木) ミサ	10 : 30
	9月 7日 (土) ミサ	8 : 00
年間第23主日	9月 8日 (日) ベトナム語ミサ	15 : 00
	9月12日 (木) ミサ	10 : 30
十字架称賛(祝)	9月14日 (土) ミサ	8 : 00

### 【中央協議会】

- ◎教皇フランシスコ「被造物を大切にする世界祈願日」メッセージ  
2024年9月1日『被造物とともにあって、希望し行動しよう』
- ◎2024年すべてのいのちを守るための月間 (9/1~10/4)  
すべてのいのちを守るという思いで環境について考え、行動する、日本のカトリック教会の特別月間です。  
9月1日(第1日曜日)は、「被造物を大切にする世界祈願日」です。  
ミサ前に、「すべてのいのちを守るキリスト者の祈り」を行います。

### 【京都司教区】

- 第二バチカン公会議を学ぶ～シノドスの歩みのために～  
【ZOOM：オンライン講座】 & 【対面分かち合い：人数制限有り】  
期間： 2024年7月～2025年4月、  
詳細は、ホール掲示板をご覧ください。

### 【奈良ブロック】

- ◎奈良ブロック・合同堅信式  
日時：9月22日(日)、14時～  
会場：奈良教会  
※堅信の準備をされている方のためにお祈り下さい。

- 2024年クリスマス・チャペルコンサート合唱団の練習について  
練習日：9月8日・29日(日)、14時～、  
場所：大和八木教会
- 2024年9月度・奈良ブロック・ミサ予定表を教会玄関に掲示。  
教会グループLINEでも配信済みです。

### 【大和高田教会】

- ◎特別献金のお願い(小教区評議会から)  
詳細は、配布いたしました趣意書をご覧ください。
- ◎9月15日(日)のミサ中に敬老の日を記念し、神父様からの祝福をいただきます(年齢は問いません)。  
75歳以上の方にはプレゼント(有志の方々の手作り)があります。
- ◎「京都教区時報」と「心のともしび」の9月号を個人ボックスへ配布しましたので、お持ち帰り下さい。  
(ボックスのない方は受付でお受け取り下さい)
- 9月度・大和高田教会のカレンダーを受付にて配布しています。  
教会グループLINEでも配信済みです。
- Sr.ローマの「聖書の分かち合い」が9月から再開します。  
再開第1回は、9月5日(木)ミサ後、場所は小聖堂です。
- 教会掃除当番  
9月 1日(日) ミサ後(奉仕日)：全員参加  
9月 8日(日) ミサ後：D地区

### 本日の聖歌

入祭	典	153	流れのほとりの 木のように	奉納	典	56	神のみ旨を 行うことは
答唱			聖書と典礼	拝領	典	166	喜びに心を はずませ
アルマ			聖書と典礼	閉祭	平	21	主よあなたの 道を

【典：典礼聖歌、聖：カトリック聖歌集、平：平和を祈ろう】

## 9月1日 年間第22主日 マルコ7章1～8、14～15、21～23節 人の中から出るけがれ

これまで5週続いたヨハネ福音書の「命のパン」についての教えは終わり、マルコに戻りました。その前の7月21日の福音ではイエスを追って集まってきた人々を憐れんで教えられる場面でした。その後、パンを増やす奇跡を行われたあと、ガリラヤ湖の対岸に渡られます。講の福音は湖の東北、ゲネサレト地方での出来事と考えられます。

そこではファリサイ派の人々とエルサレムから来た人々がイエスのもとに集まります。もちろんイエスの教えを聞きに来たのではなく、チェックするために来たのでしょう。そしたらちょうどそのとき、イエスの弟子たちに手を洗わないで食事をする者が目に留まりました。彼らにとってはイエスをやっつけるチャンス到来というわけです。というのは食事の前に手を洗ってけがれを落とすのは、律法の規定ではありませんが、ユダヤ人の中では守るべきこととして言い伝えられていたからです。

中学生のころ、食事前には手を洗うことが呼びかけられていたので、わたしは蛇口の水にさっと手を通して済ませていました。それを見た友達が「えらい形式的やな」と言っていたのを思い出します。わたしにとって「手を洗う」ことは食事前の単なる儀式に過ぎなかったのです。ファリサイ人みたいですね。

たしかに食事前に手を洗うのは大事です。でもそれはけがれを落とすためではなく、衛生的な行為です。それでイエスは人々に「人をけがすものは外から入るのではなく、人の中から出てくる」と言われます。「けがすもの」は罪や悪ということなのでしょう。このことはファリサイ人や律法学者に対する批判となっています。彼らは「自分は律法や言い伝えを固く守って清い人間である」と思いあがって人々を見下していたからです。

この話からコロナの時代を思い出します。外はウイルスがまん延しているということで、帰ったときは手指をよく洗い、消毒し、服を着替え、中にはその都度シャワーを浴びている人もいたようです。もちろん感染を防ぐための行為ですが、これが高じると「わたしは清いが世間は（あるいは他人は）けがれている」という考えになってしまいます。ファリサイ人や律法学者もそうだったのではないのでしょうか。

イエスはファリサイ人や律法学者に「神の掟を捨て、人間の言い伝えを固く守っている」と言われました。彼らにとっては守るべき言い伝えは神の掟に等しいものだったので、イエスのこの言葉は意外だったことでしょう。けれども、別の箇所でも語られているとおり、彼らは「神の掟を守る」と言いながら、第二の掟である「隣人を自分のように愛しなさい」という掟を守っていなかったからです。

イエスが「人の中から出るけがれ」と言われるものは、わたしたちの心の中にあります。それをなくすことは困難ですが、イエスの十字架による神の愛を信じ、清めていただくことを求め続けることが大切なのだと思います。

(柳本神父)